茶ぐわ～ゆんたく 204

お茶を飲みながら、ぎのわんの歴史をのぞいてみませんか？

アメリカ世～から、ヤマト世～へ 宜野湾の祖国復帰と世替わり

今から50年前となる1972（昭和47）年5月15日、沖縄県は、アメリカ合衆国の27年もの沖縄統治から脱却して、念願の祖国復帰（日本復帰）を果たしました。

軍事的占領支配下の沖縄の民衆が、支配者に対して武力による抵抗運動を展開することなく、施政権を返還させることができたのは、世界史上特筆に値する出来事でした。そこへ至るまで、沖縄県民は、歴史上かつてない大衆運動を展開しました。

現在、私たちが沖縄で日本人として生活できるのは、祖国復帰運動を諦めなかったおかげです。

▲祖国復帰要求大行進（愛知）　1969（昭和44）年
辺戸岬・那覇間を東西2コースで行進した。
『写真集ぎのわん』より

復帰と同時に、1958（昭和33）年から導入されていたドル通貨も見直され、慣れ親しんできたドル通貨から日本円に切り替えられました。切り替えは、各地の金融機関や市役所の通貨交換所で、復帰した日の5月15日から20日の6日間かけて、全県的に行われました。宜野湾でも、普天間・大謝名・大山・真栄原などの計7カ所の金融機関と普天間の郵便局で、通貨切り替えが実施されました。当時は、アメリカのドル危機のため通常の通貨交換レート（360円）より低い、1ドル305円のレートで交換され、店頭では切り替えに便乗して1ドルを305円以上に値上げして商品を販売し、物価も上昇するなど、経済が混乱しました。経済不安を打開するために日本政府は、個人保有のドル現金についてのみ360円との差額補償を行いました。

その後も日本政府は、復帰後から本土との格差是正のため様々な制度を定め、沖縄の社会整備を進めていきました。

【問い合わせ】
市立博物館　☎870-9317

▲通貨交換の様子（普天間郵便局）　1972（昭和47）年
『写真集ぎのわん』より

ぎのわんの歴史・文化遺産を歩く〔其の56〕

はじめに

今月は西普天間住宅地区返還跡地内の発掘調査で確認された歴史の道（グスクンダ）について報告します。

グスクンダとは？

平成27年にキャンプ瑞慶覧から返還された西普天間住宅地区には、戦前まで使われていた道が今も残っている場所があります。その一つがグスクンダで、喜友名グスクからヤマガー（湧水）へ向かう200メートル程の道筋となっています。

グスクンダの発見

グスクンダは、平成28年度に市教育委員会が実施した分布調査によって、初めて現地に残っていることが確認されました。その後、令和元年～令和3年にかけて発掘調査が行われました。

発掘調査の成果

これまでの調査によって、大量の石を敷き詰めたり、岩盤を削って盛土するなど大規模な造成工事が行われたことが判明しました。石の大きさは、数センチから20センチ程度ですが、石畳のようにきれいに加工されたものではなく、割ったままの状態（未加工）で使用されていました。

発掘調査では石の状況を確認するためにきれいに土を取り除きましたが、この道が使われていた当時は、石の上に薄く土を被せていたのではないかと考えられます。

グスクンダがいつ頃造られたのかは断定できませんが、発掘調査で近世頃の遺物（お碗などの破片）が出土しているため、少なくとも200年程前には現在のような形になっていたと思われます。

西普天間住宅地区の発掘調査は現在も行われており、調査成果については、今後発掘調査報告書を作成して図書館などで閲覧できるように周知していく予定です。

【問い合わせ】
文化課　☎893-4430

▲－－－グスクンダのルート

▲発掘調査で見つかった道跡